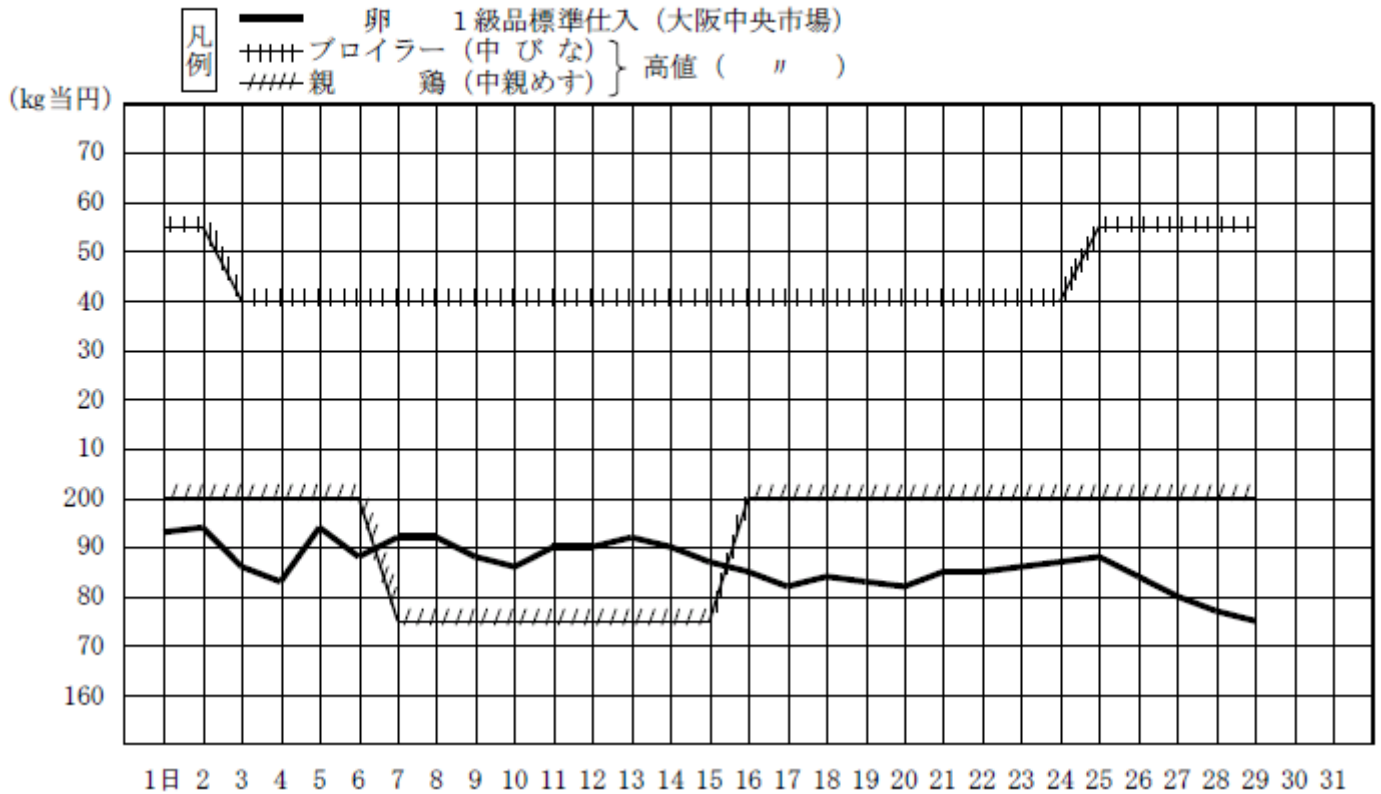


# 経済市況

## 鶏卵鶏肉市況月報

(35年2月) ー大阪経済事務所ー



2月中の鶏卵の入荷は1月より約10%増加した。中旬までは香港輸出もかなりあり、加えて末端の需要も好調であったので、kg190円がらみの相場が持続していたが、中旬にいたって香港輸出が一服したため中だ

るみ182円がらみに下げをみせた。下旬にいたって香港輸出があつて185円がらみに相場は回復したが月終りには輸出が又も一服したのと、一般の需要減が大きくひびいて175円までに下げて3月に入った。

平均価格 (kg当)	35年2月		34年2月		阪神地区入荷推定数量	共同出荷実績			
	卵	プロイラー	親鶏	卵		プロイラー	親鶏		
卵	187	177	900,000	7,000	25,000	経済連	473,000		
プロイラー	244	239	770,000	24,000	50,000	西大寺	8,800		
親鶏	192	150	1,290,000	38,000	80,000	美作	27,500		
			1,400,000	60,000	110,000	養鶏加工連		3,500	
			計	4,360,000	129,000	265,000	計	509,300	3,500

2月中神戸港より香港へ積み出された数量は約3.2万ケース (1ケース13kg) であった。これからは日一日と暖気が加わり入荷が増量して来るので、中旬過ぎ

からは更に10円方の下げをみせよう。ともあれ2月の平均相場はkg187円で昨年同期より11円高で堅調であった。

岡山畜産便り1960.04

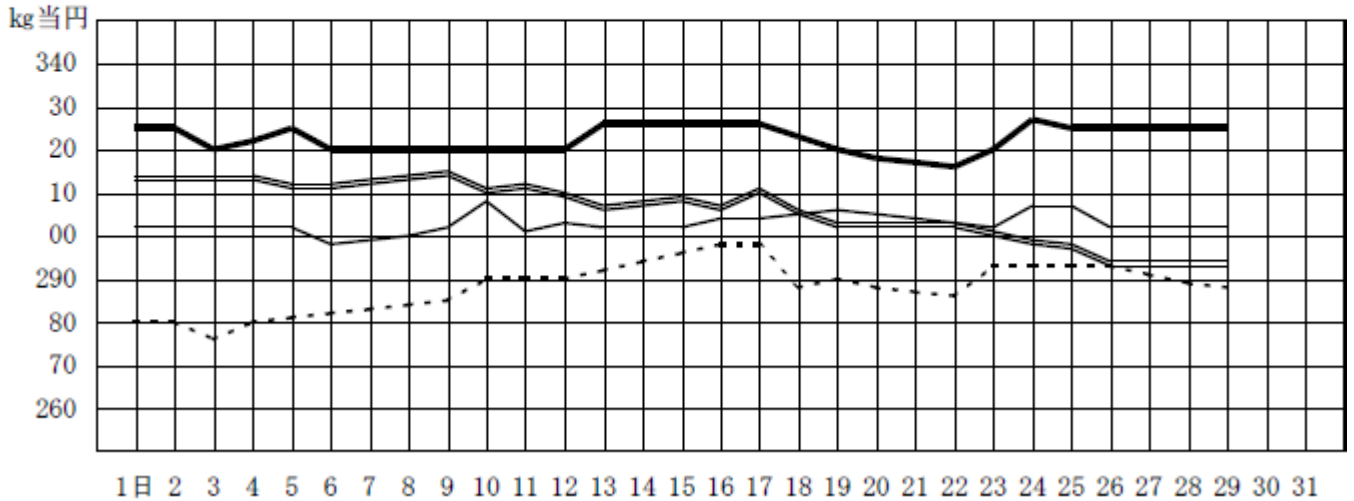
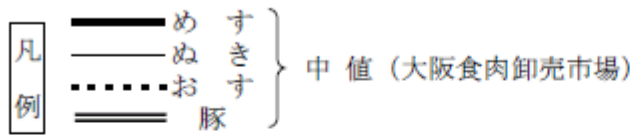
大阪卵業協会では卵価安の3～4月を消費促進の好時期として15～17日の3日間、岡山県、香川県、大阪府等の協賛で卵祭りを開催し、大阪市中にデコレーションカー、宣伝車等をくり出してのパレードを展開して消費の増大を期している。

食鳥は1月に引き続いて末端の売行は芳しくなかったが、何分にも入荷が少ないことから依然としてない物高の市況であった。即ち若の中びなで月間平均kg

244円で前年同期より5円高、古の中親めすで同じく192円の42円高であった。3月に入って若の入荷は幾分増加しているが、古は依然として入荷少く相場の気配が強い。

肉 畜 市 況 月 報

(35年2月) ー大阪経済事務所ー



		35年2月	34年2月	と畜頭数(大阪市と場)	牛	3,835
中物平均価格	めす	323円	303円		仔牛	567
	ぬき	302	261		豚	6,623
	おす	288	242		馬	57
	豚	294	190		めん羊	15

2月の入荷は牛、豚共に1月より減少したが取引の方も暖冬のため低調で、活気のない月であった。したがって相場も弱く、豚は連日ジリ安商状を辿った。即ち月初め中物でkg315円がらみから月末には295円と20円方値を下げて来た。相場は総じて低調であったが、前年同期よりはめすでkg20円高、ぬき41円高、おす46円高、豚は実に104円高と何れも昨年を上廻る相場で

あった。昨年末の豚肉緊急輸入に続いて最近第二次の豚肉及び生豚の輸入が決定したが、数量は豚肉1,500トン、生豚4,900頭で3月下旬から入荷して市場への出廻りは4月早々になるとみられる。農林省はこの輸入措置によって今年上半期を280円から300円の間安定相場に持って行きたい意向のようである。